

令和6年度  
事業計画書

令和6年 4月 1日から

令和7年 3月31日まで



公益財団法人

木原記念横浜生命科学振興財団

公益財団法人木原記念横浜生命科学振興財団

## 基本方針

定款に定めた財団の目的である4つの柱に沿って、令和6年度は次のとおり事業計画を定め、取り組んでまいります。

**学術振興及び知識普及啓発**の取組としては、広く日本全国の若手研究者を候補とする『木原記念財団学術賞』を実施するとともに、長期的な視点に立って神奈川県内の小・中学生の科学の芽を育むため、『木原記念こども科学賞』を実施します。

当該両輪の賞をもって、木原均博士の志を汲み、一時の潮流・時流にとらわれることのない、息の長い、一貫した人材育成施策を実施します。

**共同研究開発等の企画及び推進**の取組としては、企業や大学が互いの強みやアイデアを活かした共同研究開発の企画・プロジェクト化を後押しし、開発を進めるうえでの課題となる資金獲得等を支援するとともに、自らも我が国の生命科学分野における役割期待に応えるべく、新たなプロジェクトの創出に向けて取り組みます。

**産業活性化の支援**の取組としては、横浜市のライフサイエンス分野関連施策の中心的な支援機関として、横浜市内中小企業・スタートアップ等の製品や技術を発信するための各種企画を推進し、技術連携・ビジネス創出の機会を増やし、マッチング機会の創出を目指します。ヘルスケア関連分野の中でも、デジタル技術を活用したデジタルヘルスケア産業の活性化支援活動を引き続き実施します。

また、末広地区の立地を有効に活用したアカデミア、ベンチャー、企業との連携強化を進めます。

**産業集積・技術支援のための研究開発施設の設置・管理運営**の取組としては、バイオベンチャー等の集積拠点である『横浜バイオ産業センター（YBIC）』について、監視盤の交換等、長期修繕計画に基づく計画的な修繕を実施し、研究開発の良好な環境を提供します。

以上4つの柱に沿った取組を実施し、神奈川県内、横浜市内を拠点とする生命科学の振興とその応用による産業の活性化に寄与するよう尽力します。今年度からライフサイエンス技術を活用したGX、脱炭素領域での産業活性化に寄与する取り組みも開始いたします。

# I 生命科学に関する学術振興及び知識普及啓発事業

(令和6年度：7百万円、令和5年度：8百万円)

## 1 学術奨励事業

### (1) 木原記念財団学術賞【公益目的事業区分（以下「区分」）：表彰・コンクール】

生命科学の分野で優れた独創的研究を行っており、今後のさらなる発展が期待できる研究者（満50歳以下）について、学会、大学、公的研究機関、過去の受賞者に推薦を依頼し、応募者の中から選考の上、最も優れた研究者に第33回「木原記念財団学術賞」を授与します。

令和5年度に完成した30周年記念誌を引き続き活用し、プレゼンス向上に資するような情報発信等を継続して実施します。

#### 【実施予定】

- ・募集期間：令和6年6月～9月
- ・選考：選考委員による選定
- ・授賞式等：令和7年6月

## 2 知識普及啓発事業【区分：表彰・コンクール、体験活動等】

### (1) 木原記念こども科学賞

長期的な視点に立って神奈川県内の小・中学生の科学の芽を育むため、作品を募集・選考し、小学校低学年・高学年・中学校の各部門において優れた作品を第32回「木原記念こども科学賞」として表彰します。

#### 【実施予定】

- ・募集期間：令和6年7月～9月
- ・選考：選考委員により、各部門最優秀賞、優秀賞、努力賞等選定
- ・表彰式：令和6年12月

## 3 情報発信【区分：その他】

財団のホームページや財団の有するネットワークを通じて、生命科学の振興に役立つ情報を発信します。

また、一般市民にも財団の活動を周知できるよう、広報活動の拡大に努めます。

## II 生命科学に関する共同研究開発等の企画及び推進事業

(令和6年度：14百万円、令和5年度：57百万円)

### 1 共同研究【区分：技術開発・研究開発、講座・セミナー・育成、相談・助言】

#### (1) 共同研究開発の創出・推進

神奈川県域に立地する生命科学分野の中小企業・スタートアップや大学・研究機関等が連携する、社会実装が有望視される研究開発プロジェクトの創出・推進を支援します。

また、研究開発を推進するため、国等の公的助成金を活用したプロジェクトの創出に取り組みます。

#### (2) 大学・研究機関の研究・産学連携支援

神奈川県域に立地する生命科学分野の大学・研究機関等の研究・産学連携を支援します。令和6年度は横浜市立大学の研究支援・産学連携支援 URA 業務を受託し、当該大学の研究資金の獲得・成果の社会展開・プロジェクト管理等を行います。

また、横浜市立大学が推進する「共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)」において、産学官民連携による大学発の事業創出イベントの実施を支援する予定です。

### 2 研究開発等助成事業【区分：助成（応募型）】

#### (1) トライアル助成事業（仮称）

中小企業・スタートアップや大学・研究機関等の研究成果、臨床ニーズ等の実用化に向け、アイデアを具体化する試作品開発やデータ検証等にかかる費用を助成します。

**【名称】** トライアル助成事業（仮称）

**【助成率・助成限度額・助成件数】** 10/10 以内

中小企業・スタートアップ等 200 万円/4 件、大学・研究機関等 100 万円/5 件程度

### Ⅲ 生命科学の応用による産業活性化の支援事業

(令和6年度：35百万円、令和5年度：42百万円)

#### 1 事業化支援【区分：相談・助言、講座・セミナー・育成】

横浜市補助事業として、横浜市内の中小企業・スタートアップ等に対する以下のよ  
うな支援を通じ、健康・医療分野の産業の活性化を図ります。

##### (1) BIBLIOの運営

研究開発シーズの事業化支援の一環として、研究開発情報や専門知識、人的ネット  
ワークに効率的にアクセスしてアイデア創出を促す拠点、「BIBLIO」を YBIC 内で引  
き続き運営します。

移転後も、各種支援・情報発信窓口として、以下3点を中心に事業を運営する予定で  
す。

- ・コーディネータ等の専門家による相談体制を整備し、中小企業・スタートアップ、  
大学研究機関等からの様々な相談に応じます。
- ・知識集積型の相談窓口として、中小企業・スタートアップ、大学研究機関等が市  
場調査資料や専門書を閲覧できるように、健康・医療分野の文献、雑誌、市場調  
査データ等の配架を行います。
- ・横浜市内中小企業・スタートアップ等の最先端の技術を紹介し、技術連携・企業  
の研究開発および戦略立案・人材育成など幅広いテーマのセミナー等を開催しま  
す。

※横浜市の事業見直しに伴い、「LIP.YOKOHAMA BIBLIO」から、「BIBLIO」に名称変  
更を行います。

##### (2) マッチング機会の創出

市内中小企業・スタートアップ・アカデミア等の研究開発・技術の実用化に向け、  
市内大手企業とのマッチングやネットワーキングの機会創出を行う展示会  
「Innovation Showcase」を開催します。大手企業からニーズの発表、中小企業等から  
技術プレゼンテーションおよびパネル展示等を行い、参加者間のネットワーキングを  
促進するためマッチングを支援します。

「見て」「聴いて」「話す」プログラムの実施により、市内中小企業・スタートアッ  
プ・アカデミア等が外部と連携し、研究開発、事業化を進めるための支援を行います。

過去7回のクロスイノベーションカンファレンス開催で参加した54社の異分野大手

企業と構築したネットワークに加え、新たな異分野大手企業を発掘することで、新たな連携開始のための機会を創出します。

市内中小企業・スタートアップ・アカデミアのマッチング機会創出および販路開拓に資する、展示会出展支援を行います。

### **(3) トライアル助成事業【区分：助成（応募型）】（再掲）**

中小企業・スタートアップや大学・研究機関等の研究成果、臨床ニーズ等の実用化に向け、アイデアを具体化する試作品開発やデータ検証等にかかる費用を助成します。

### **(4) 健康医療分野の事業推進事業**

健康医療分野で事業を進める、または新規参入を検討している企業に対して、事業計画立案から製品上市までの確実性の向上と時間短縮を目的として、事業推進に関する専門家から助言を得ることができるプラットフォームを構築し、運用します。

### **(5) 個別支援等**

中小企業・スタートアップ等への個別訪問・ヒアリング等により、生命科学分野で事業を行う際の課題に応じた助言、コーディネータ等の専門家相談対応、外部機関とのマッチング、必要に応じたプロジェクト組成と伴走、助成金獲得等の個別支援を実施します。

## **2 ネットワーク促進、活用事業（マッチング）【区分：その他】**

### **(1) 横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワークの運営**

横浜・神奈川バイオビジネス・ネットワークを活用し、産業活性化に資する情報発信等を行います。

### **(2) バイオベンチャーアライアンス（BVA）の運営**

中小企業・スタートアップ等、大学、金融機関等の連携体であるBVAの中核機関として事務局機能を担い、会員間の交流促進や研究開発助成に係る公募情報等の提供、企業間連携のコーディネーションなどの支援を行います。令和6年度は連携体としての運営体制の整理・規程類等の見直しを含め、組織整備等を行います。

### **(3) 末広地区でのアカデミア、ベンチャー、企業との連携**

木原財団の立地の優位性を活用した地域連携の立ち上げを開始します。横浜市が企画している「末広町地区まちづくり協議会」をベースにネットワーク構築を進めます。

#### (4) 「Zero Carbon Yokohama」の推進

令和4年度の木原記念財団学術賞を受賞した、国立遺伝研究所宮城島進也先生が進めるZero Carbonの取り組みに関して木原財団としての支援の可能性検討を開始します。また、木原財団が支援する「Garderia」、「ユーグレナ」と宮城島先生との連携の可能性の検討も進めます。

### **3 出展支援・広報【区分：展示会・〇〇ショー、相談・助言、講座・セミナー・育成】**

※横浜市からの受託が決定することを停止条件とします。

横浜市からの受託事業として、以下のような支援を通じ、横浜市内の中小企業・スタートアップ等の技術や製品を国内外にアピールし、技術連携やビジネスの創出につなげます。

#### (1) バイオジャパン2024出展支援

横浜市、川崎市と連携してバイオジャパン2024内にパビリオンを設け、域内に立地する中小企業・スタートアップ等の出展や販路拡大を支援します。

#### (2) 自主イベントの開催

寄附と財団自主財源による、スタートアップや研究開発支援もしくは、数年後に実施される大型イベントの準備に資する情報発信プログラム実施します。

### **4 クラスター連携【区分：その他】**

#### (1) クラスター連携

バイオ産業支援機関ネットワーク会議の事務局として地域のクラスターを支援する公的機関、研究機関等と定期的に交流を行い、各地域の支援内容や成功事例等を共有するとともに、地域の枠を越えた共同研究・事業連携等の創出に取り組みます。

## IV 生命科学に関する産業集積・技術支援のための研究開発施設の設置及び管理運営（令和6年度：149百万円、令和5年度：178万円）

### 1 横浜バイオ産業センター（YBIC）事業【区分：施設の貸与】

バイオ産業集積の拠点となる横浜バイオ産業センター（YBIC）の運営を通じ、研究開発の場を提供（賃貸）し、また、研究開発や事業化に係る各種情報を随時提供することにより、中小企業・スタートアップ、大学・研究機関等を支援します。

運営にあたっては、消防訓練などを実施するとともに、防犯監視盤やパッケージエアコンの更新等、長期修繕計画に基づく計画的な修繕を実施し、安全性の高い研究環境を提供します。また、退去等の機会をとらえ、照明のLED化を進めるなど、脱炭素にも貢献した施設の維持管理を図ります。

なお、現在入居しているテナント2社の退去が予定されていますが、可能な限り空室期間が生じないよう新規テナントの確保に努めます。